

新 入 會 員

芳 賀 昭 治	東京都世田谷區玉川奥澤町三ノ一〇五九
小 村 京 子	札幌市北大理學部動物學教室
水 木 隆 治	青森縣南津輕郡藏館村大字苦木
篠 原 圭 三 郎	福島縣平市四丁目九
武 井 武 一	群馬縣利根郡南村上沼須新田
山 崎 正 美	岡山縣倉敷市南町二一

平 間 富 夫 氏 の 訃

宮城縣刈田郡の平間富夫氏は終戦後の消息杳として判らなかつたが昭和23年11月16日になつて戦死の公報が御自宅に届いた。太平洋戦争の犠牲者として深く哀悼の意を捧げる。御出征の時の姿を本誌第8巻第1/2號にとめて居られるが感慨深いものを覚える。

高 桑 先 生 の 奇 禍

先生は去る3月28日夜外出なされた時自宅から3町程隔たる道路上で暗い所に窪みのあつたに爪先がはまり烈しく轉倒、大腿骨の頸部骨折といふ難に遭はれ爾後5月12日現在に於てもまだ御自宅で寝たきりの有様であるが私が當日お見舞した時は意外に御元氣で色々お話を伺ひ又圖々しくもムカデ標品の鑑定までもして頂いた程で順次快方に向はれつゝある。先生の古くからの學友森川勉氏(博物學者)が先日お見舞に來て「君迎ふ喜の字の春を麓にて登り行かばや不死の神山」と詠まれたら先生は「たどたと喜の字の山に着きたれどなど足許の覺束なしや」と和された。どちらも夫々の作者が達筆に認めたのが御病室の壁に掲げてあつた。御快癒を切に祈る者豈筆者一人のみならんや。

前 號 正 誤

頁	行	誤	正
108	- 4	サソリモトキ	サソリモドキ
110	+ 4	一つは	第1圖は
112	- 3	本當は蝸で	本當は蠍で
117	+10	諸地城	諸地域